

表1 地下水の水質汚濁に係る環境基準

| 項目 | 基準値 | 測定方法 |
|----------------------------------|---------------|--|
| カドミウム | 0.003mg/L 以下 | 日本産業規格（以下「規格」という。）K0102の55.2、55.3又は55.4に定める方法 |
| 全シアン | 検出されないこと。 | 規格K0102の38.1.2（規格K0102の38の備考11を除く。以下同じ。）及び38.2に定める方法、規格K0102の38.1.2及び38.3に定める方法、規格K0102の38.1.2及び38.5に定める方法又は昭和46年12月環境庁告示第59号（水質汚濁に係る環境基準について）（以下「公共用水域告示」という。）付表1に掲げる方法 |
| 鉛 | 0.01mg/L 以下 | 規格K0102の54に定める方法 |
| 六価クロム | 0.05mg/L 以下 | 規格K0102の65.2（規格K0102の65.2.7を除く。）に定める方法（ただし、規格K0102の65.2.6に定める方法により塩分の濃度の高い試料を測定する場合には、規格K0170-7の7のa)又はb)に定める操作を行うものとする。） |
| 砒素 | 0.01mg/L 以下 | 規格K0102の61.2、61.3又は61.4に定める方法 |
| 総水銀 | 0.0005mg/L 以下 | 公共用水域告示付表2に掲げる方法 |
| アルキル水銀 | 検出されないこと。 | 公共用水域告示付表3に掲げる方法 |
| P C B | 検出されないこと。 | 公共用水域告示付表4に掲げる方法 |
| ジクロロメタン | 0.02mg/L 以下 | 規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法 |
| 四塩化炭素 | 0.002mg/L 以下 | 規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法 |
| クロロエチレン （別名：塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー） | 0.002mg/L 以下 | 平成9年3月環境庁告示第10号（地下水の水質汚濁に係る環境基準について）付表に掲げる方法 |
| 1,2-ジクロロエタン | 0.004mg/L 以下 | 規格K0125の5.1、5.2、5.3.1又は5.3.2に定める方法 |
| 1,1-ジクロロエチレン | 0.1mg/L 以下 | 規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法 |
| 1,2-ジクロロエチレン | 0.04mg/L 以下 | シス体にあつては規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法、トランス体にあつては規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1に定める方法 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | 1mg/L 以下 | 規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | 0.006mg/L 以下 | 規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法 |
| トリクロロエチレン | 0.01mg/L 以下 | 規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法 |
| テトラクロロエチレン | 0.01mg/L 以下 | 規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法 |
| 1,3-ジクロロプロペン | 0.002mg/L 以下 | 規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1に定める方法 |
| チウラム | 0.006mg/L 以下 | 公共用水域告示付表5に掲げる方法 |
| シマジン | 0.003mg/L 以下 | 公共用水域告示付表6の第1又は第2に掲げる方法 |
| チオベンカルブ | 0.02mg/L 以下 | 公共用水域告示付表6の第1又は第2に掲げる方法 |

| | | |
|---------------|-------------|---|
| ベンゼン | 0.01mg/L 以下 | 規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法 |
| セレン | 0.01mg/L以下 | 規格K0102の67.2、67.3又は67.4に定める方法 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | 10mg/L以下 | 硝酸性窒素にあつては規格K0102の43.2.1、43.2.3、43.2.5又は43.2.6に定める方法、亜硝酸性窒素にあつては規格K0102の43.1に定める方法 |
| ふっ素 | 0.8mg/L以下 | 規格K0102の34.1（規格K0102の34の備考1を除く。）若しくは34.4（妨害となる物質としてハロゲン化合物又はハロゲン化水素が多量に含まれる試料を測定する場合にあつては、蒸留試薬溶液として、水約200mlに硫酸10ml、りん酸60ml及び塩化ナトリウム10gを溶かした溶液とグリセリン250mlを混合し、水を加えて1,000mlとしたものを用い、規格K0170-6の6図2注記のアルミニウム溶液のラインを追加する。）に定める方法又は規格K0102の34.1.1c）（注 ⁽²⁾ ）第三文及び規格K0102の34の備考1を除く。）に定める方法（懸濁物質及びイオンクロマトグラフ法で妨害となる物質が共存しないことを確認した場合にあつては、これを省略することができる。）及び公共用水域告示付表7に掲げる方法 |
| ほう素 | 1mg/L 以下 | 規格K0102の47.1、47.3又は47.4に定める方法 |
| 1,4-ジオキサン | 0.05mg/L 以下 | 公共用水域告示付表8に掲げる方法 |
| 備考 | | <p>1 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。</p> <p>2 「検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。</p> <p>3 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、規格K0102の43.2.1、43.2.3、46.2.5又は43.2.6により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと規格0102の43.1により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。</p> <p>4 1,2-ジクロロエチレンの濃度は、規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2により測定されたシス体の濃度と規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1により測定されたトランス体の濃度の和とする。</p> |